

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームエデンの丘
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市坂元町161-4
記入者名 (管理者)	上村 文則
記入日	平成 19年 11月 16日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの理念として「地域に信頼され人々との交流が自由にできるように支援します」というグループホーム独自の理念を掲げて地域との関わりを大切にしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうように説明している。皆が集まるホールがよく見える所に理念を掲げ朝礼で声をそろえて唱和することで理念の実践に向けて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットや玄関にも理念を掲げ、家族や訪れる人々へホームの理念を理解してもらえるようにしている。	地域の集まりやイベントへの参加したり、折に触れ事業所の実践を伝えるように広報活動をしている。3ヶ月ごとにホームだよりを作成し、自治会には、回覧板で、地域の民生委員、近隣の方々には配布し、理解してもらうようにしている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの周辺を散歩や散策した際、近隣の方や子供さんたちと挨拶したり、気軽にホームにも立ち寄ってもらえるように門や垣根は設置していないで、だれでも入りやすいようにしている。地域の方々もたまには立ち寄っていただいている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に入会し、敬老会、校区運動会、夏祭りなどに参加し、交流を深めている。又、ホームの夏祭りなどにも多くの地域の方々の参加がある。	生涯学習発表会などの出し物は、地域からの要望で職員が教えて一緒に参加している。地域の「安全市民パトロールSAP隊」の一員として活動もしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの1年間の歩みのDVDなどを作り、地域の会合などで認知症ケアの啓発、広報が出来るようにしている。又、地域の方々からの介護相談にも、「相談してよかった」と思われるように心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価、自己評価の意義を職員会議や朝礼、終礼で事あるごとに話し、外部評価の結果を踏まえ、改善できるところは実践している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は運営推進会議を開催し、サービスの状況報告や情報交換などしてサービス向上へとつなげている。そこでの話しを職員で共有できるように申し送りの中で話している。		運営推進会議で出した意見は、早急に取り組みその結果は、次回の運営推進会議で報告するようにしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鹿児島市が実施する説明会や、研修などに参加している。又、必要に応じて市役所に電話連絡したり、出向いて助言や指導は受けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今の所該当者はいないが、学ぶ機会を研修やパンフレットなどを通じて勉強している。	○	機会あるごとにスタッフに説明をし、研修などに参加する機会を多くし、勉強していきたい。またソレを利用者に還元できるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の講演会や研修会に機会あるごとに出かけ、他の職員にも報告し、虐待についての意識を高め、虐待防止に関する理解と実践に努めている。		スタッフ間でお互いに情報を共有して虐待を見過ごすことがないように細心の注意を払っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項説明書に基づき丁寧に説明し、特に医療行為が必要になった時の対応、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について理解、納得を頂いてから契約している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と常日頃より信頼関係を築くように努力し、不満などがあれば何時でも自分の気持ちが表出できるように支援する。少なくとも3ヶ月に1回はカンファレンスを行い意見や苦情など聞く機会は設けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書と一緒に領収書貼付の金銭管理報告書と、毎日の生活ぶりの記録「御家族連絡表」も一緒にご家族に送るとともに行事の計画などもお知らせし理解を頂くようにしている。家族の同意を得て、1年間のホーム生活ぶりの写真をDVDに作成し家族に配布している。	毎月、数枚選んで一人一人写真も配布している。家族の方の面会時には最近の状態などお話し、事業所からの要望などや家族からの希望を聞くようにしている。又、体調の変化や本人の希望などその都度連絡している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、少なくとも3ヶ月に1回はカンファレンスを行い家族と利用者が意見や要望、苦情などを聞いている。日常の中でも、お互いに希望や苦情が言い合えるような雰囲気づくりを心がけている	年2回は家族会を開催し入居者やお互いの家族との親睦を図り、その中で疑問や意見などあれば話し合えるようにしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事あるごとにスタッフの意見を聞くようにし、月例職員会議でも意見や提案を聞くようにしている。難しいことは管理者より理事長や担当者に話してもらっているようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急時に職員が駆けつけたり、必要な時に交代などが柔軟に出来るように余裕を持った人員の確保につとめている。夜勤も均等に勤務し、職員の配属もホーム内で定期的に交代することで誰でも入居者全員の状況を把握しいつでもケアが出来るようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入職する時は利用者で紹介し、信頼関係が築けるように支援している。そしてなるべく利用者へのダメージを少なくする様さりげない交代が出来るように配慮している。	常日頃、全入居者への挨拶や、1階、2階合同の行事を取り入れて職員のコミュニケーションをとれるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の開催のお知らせなどは連絡つづりに綴り、職員に周知できるようにし、見たらサインを入れるようにしている。研修内容を職員会議のときに報告し、職員全員で勉強するようにしている。報告書はいつでも閲覧できるようにしている。	希望者が一人でも多く参加できるように勤務調整している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所や他の施設などを訪問し、見学やその担当者に話しを聞いたりしてそれをホームに持ち帰り、質の向上につなげられるようにしている。介護支援専門員協議会、鹿児島県グループホーム協会等に入会し、研修には積極的に参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会をことあるごとに開催し、職員のストレス発散と職員の和を保てるように努力している。職員の意見が必要であれば理事長に報告し、解決するように心がけている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も頻繁に現場に来て、変化がないかなど職員や利用者に話しかけている。職員の健康状態に配慮し職員検診やレントゲン、インフルエンザ予防接種など実施し心身の健康状態を保つようにしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面談で生活状況と本人の人となりを把握できるように努め、数回お会いすることで本人や、家族の不安や問題点を把握し、理解するようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族がどういうふうな状況を求められているか話しの中でよく聴き取り、ニーズを受けとめる努力をしている。これまでの御家族の生活の経緯、家族関係を把握するように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思いを受け止め、調整し、今の状況の改善に向けた支援の提案なども含めて納得していただけるように努力している。さらに必要や希望があれば他サービスへ繋げるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学していただけることから始め、施設で出来るサービスについて説明し、気に入っていただけたら話を進めるようにしている。やむを得ずすぐの利用が始まった時には、落ち着かれるまで家族や以前関わっていた方の協力を得たり、スタッフも安心してもらえるように雰囲気作りに特に力を入れている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の喜怒哀楽に注目し、そうなる理由や訳に思いを馳せ、共に暮らしの中で共感し支えあえるような関係づくりに努めている。時には入居者から逆にスタッフの方が励ましの言葉をいただいたりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎日の暮らしぶりを家族に「ご家族様連絡表」を送付する中で、日々の暮らしや状況の中での出来事や気づきを家族と共有するように努め、御家族にも行事などに参加していただき、一緒に支えて行けるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の家族への思いを受け止め、状況を見極めながら御家族との外出、外泊で気分転換を図ったり、家族にも行事に参加していただけるように誘ったりしながら、より良い関係の構築、継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が馴染みの美容室に連れて行かれたり、墓参りや、家族のお見舞いに行かれたりされている。また何時でも知り合いの方々の面会が気兼ねなく出来るような雰囲気づくりを心がけている。		年賀状や暑中見舞いなど季節の便りにより家族や知人との絆を深め思いが届くような働きかけを心がける。ただ、同ホームに併設のデイサービスに来られた方が、定期的に合いにきてくれる。ご家族、友人などの面会も多い。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	皆で過ごす時間も大事にし、又気の合う利用者同士で過ごせる場所づくりにも気を配り利用者同士が関わりあえるように支援している。毎日のお茶の時間には職員も中に入り、コミュニケーションを促すようにしている。		心身の状態や、感情で利用者同士の関係が悪化することがあるので、注意深い見守りと、必要時には職員が介入したり、あるいはレク活動などを通じて関係改善を図るようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要とされる利用者や家族に対しては、継続的な関わりを持つようにし相談などに応じている。入院でサービスが終了した方であったが、継続的な様子伺いをしていき、退院時には本人やご家族の希望で再入所となった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で声掛けにより、言葉や表情の中で隠れた真意を推し量れるように観察し、本人の意向に沿えるように、あるいは御家族の意向との接点を図れるように本人本位に調整していくように努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中で本人や御家族に生活歴などを聴き取るようにしている。又入所後も折に触れ話の中で情報を得るようにしている。		新しい入居者の方々は、職員も分からない事が多く、ご家族に職員のきずかない所や、本人のニーズなどあれば遠慮なく申し出てもらうようしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	身体状況1チェック表、経過記録などを通して利用者一人一人の生活リズム(食事、排泄、生活習慣など)を理解するようにしている。出来ないことより、出来ることへ注目し、心理面の視点などを通して本人の全体像をつかむようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いを形にするように、本人・家族の希望に沿って歩行訓練のための訪問リハビリやあるいはマッサージなどを取り入れた介護計画を立てている。スタッフで出来る部分は支援計画の中に入れていく(浮腫軽減のためのメドマ、簡単な運動など)		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況などを定期的に評価し、利用者の状態変化や状況、家族、本人とも話し合い現状に即した計画を作成している。対応できない変化が生じた場合にはその都度要望に応じてスタッフと話し合い見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録台帳では本人の言葉、態度なども記録し、精神状態、状態変化などがわかるように記録し情報共有しながら介護計画にいかしている。日常の変化や連絡に関しては個別に記入できる連絡帳を使い、勤務に着く前に目を通し、情報を共有し介護に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診などに対しては、地域のヘルパーステーションを紹介することで御家族が望めば、利用に繋げている。また買い物や気分転換などに対応して外出を計画するなど臨機応変に対応している。併設のデイサービスの慰問の見学に行ったりしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアの支援を受けている。地域の警察や消防関係の方々と事あるごとに連携をとって、防災訓練は年に2回は実施している。又地域行事の際には町内会の方々の協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅のケアマネや地域包括支援センターの方々の支援を受けながら、本人や家族の状態に応じて老健、特養、病院などと連携を取っている。希望に応じて訪問理美容を受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員も出席してもらい、意見交換、指導、助言、援助などを受けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を優先し、主治医を決めていただき、往診や家族による受診及び診療情報などいただけるような関係を築き、本人の為に適切な医療が受けられるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図ると共にプライバシーを損ねる言動を慎むように日々の介護の中で、注意している。個人情報が入居時に個人情報取り扱い同意書に同意を頂き、それに基づいて取り扱っている。個人台帳は事務所で保管し外部の目に触れないようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人がどうしたいのかを言葉に限らず、動きや目の表情などでよみとり、その人の能力に合わせた話しかけを行って、本人の自己決定を引き出すような支援を心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩、部屋でのくつろぎ、読書など一人ひとりのペースを大事にしつつ、食事やお茶の時間などは全員でなるべく揃うことも大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホームでの希望があれば訪問理容があるが、御家族や本人が希望されれば行きつけの店に行かれている。又ホームでされる方についても本人の希望に添うような髪型を心がけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえやおやつを一緒に作ったり、後片付けを手伝ってもらったりしてその方の能力を生かすようにしている。ホームの畑で出来た野菜と一緒に採ってきて食べる楽しみにつなげている。野外での食事も季節によって取り入れている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	養命酒など家族の了承の下に、部屋で楽しまれている。飲み物やお酒も体に害のない範囲で楽しめるように支援している。	たまには本人の好みで、梅干や漬物を個別に出したりしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の自尊心を大切にし、排泄のパターン、習慣を分りできるだけ失敗や、オムツの使用が減らせるように排泄の支援をしている。人によっては夜と昼間の対応を変え日中はトイレでの排泄が出来るように誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴の曜日や時間帯は決まっているが、一人ひとりの希望やタイミングがあるので、柔軟な対応を心がけている。入浴拒否がある人にはその方の状態を見て、チームプレイで声掛けの工夫をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間気持ちよく眠れるように、なるべく日中の活動を促し夕方からは穏やかに過ごせるように繋げている。又個別の身体状況や体調や表情など考慮し、その時々に応じて休息についてスタッフ間で話し合っている。薬剤については医療との連携で調整に努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑づくり、草引き、洗濯物干し、洗濯物たたみなど好きなこと、お願いできそうな仕事を頼み気晴らしに繋がるようにしている。終わったら感謝の言葉を添えるようにしている。得意な分野を支援することで自身や喜びを感じることに繋がるように努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族との話し合いの中で、お金を持つことを了承してもらい日用品やジュースなどの購入をされている。本人もお金を持つことで安心感があり、社会性の維持につなげている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じて戸外のドライブや、外出レクなどによって気分転換を図り季節を肌で感じていただくと共に、生き生きと過ごせる場面づくりに努力している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の思いや願いが叶えられるように、利用者、家族と相談しご家族に協力を得ている。ゾーメン流しやみかん狩りなど普段行けない所に計画を立て、御家族も一緒に出かける楽しみを作るように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手から電話がかかってきたら取次ぎゆっくりと話せる場所を提供している。電話など希望があればいつでも出来るように支援している。贈り物や、手紙などが届いたらお礼の電話を本人と共にかけるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間などは決めておらず、いつでも気兼ねなく訪れ過ごしてもらえるように、自然体でむかえている。希望があれば食事を一緒にとって貰うことも可能である。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議や日々の申し送り時の中で、自覚しない身体拘束がないか常にスタッフ間で情報を共有し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出て行く気配を職員が察知するようにしており、さりげない声掛けをしたり、見守りや連携プレーが出来るようにし、安全面に配慮して自由な生活ができるように支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録など取る時も職員は入居者がよく見える場所に座り、さりげなく状況を把握するようにしている。夜間は常に利用者の様子を確認すると共に、起きられた時にはすぐに対応できるように利用者の安全に配慮している。2階の入り口には安全のためドアが開くたびに鈴の音で人の出入りが分かるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	厳重に保管するべきもの(包丁、薬品など)は別として状態に応じて危険を防ぐように保管している。はさみなど使用を妨げるものではなく、使用しないときには所定の場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットや事故報告を記録し、職員で情報を共有することで今後の事故防止に活用している。個人個人の状態を把握し、リスクの高い部分の事故防止への見守り、介入を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が普通救命講習を受け、人工呼吸や蘇生術の研修を受けることで万が一の事故にそなえている。又、個別に応じて看護師が中心でミニの研修はしている。		普通救命講習会を受け、常日頃の研修の大切さが分かり、半年に1回は、普通救命講習を受けるように計画している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は利用者と共に避難訓練、消火器の使い方等防災訓練を行っている。地域の協力体制については、自治会や運営推進会議で協力を呼びかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	高齢であるので活動や外出などにより起こりうるリスクを常に念頭におきつつ、御家族にもその兼ね合いを話し、理解していただきながら入居者の生活が活発なものになるように支援する。		3ヶ月モニタリング時や面会時に、ご家族に本人の状況を話しリスクに対する理解を得るようにし、対応について話し合いをするようにしている。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも変化があれば、こまめにバイタルチェックを行い、上司、看護師の判断を仰ぎ必要があれば速やかに医療受診につなげるように御家族に連絡している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認チェック表をつけ服薬支援を行っている。処方箋のコピーを個人ケースごとに入れておき、薬の内容を把握するように努めている。症状の変化があれば、上司、看護師に報告し判断を仰ぐようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならないように乳製品や水分の摂取に気を配り、繊維質の食材を取り入れるようにしている。できるだけ体操やレクで体を動かすようにしている。個々の状態に合わせた薬剤の調整を図っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを声掛けし、個人の出来る力に配慮しつつ、必要に応じて磨き方の不十分な人は職員が見守りや、手伝いをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記入し職員が情報を共有し、大まかな1日の状態を把握するようにしている。その日の各担当者が食事内容と材料を記録している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し職員が何時でも見ることが出来るようにしている。インフルエンザの予防接種を職員、入居者全員(体調不良の人以外)受けている。感染症予防の為にペーパータオルを使用するなど予防に注意している。玄関先や洗面台に消毒液を常備し予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所水回りの清潔、衛生を保つように心がけ、定期的に除菌している。さらに曜日ごとに重点的な掃除をする場所を決め実行している。食材の担当者がおり、在庫のチェックをし、なるべく在庫を増やさないようにしている。野菜類は専用のバスケットに入れ、冷蔵庫で保管している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を置いたり、入り口にプランターなどを置いて明るい雰囲気づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レク活動を通じて利用者と共に季節感のある壁面を作成、飾り付けしている。カーテンで光の調節を行い、テレビや音楽の音量を調節して不快感がないように配慮している。台所とは対面式になっており、生活感があり、食欲を注ぐ音や匂いが漂い生活感がある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にソファを置き、仲の良い入居者同士や御家族でくつろげるスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の使い方は入所者や御家族の意向を尊重してテレビや机など使い慣れたものを持ってこられている方もある。居室に花や写真を飾ったりされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレは自動センサーによって換気扇と照明が連動して働くようになっている。空調は職員がホール、居室とも入居者の様子や希望によってリモコンで調節している。換気は時に応じてこまめにするように心がけている。温度調節は個人の感覚に合わせて衣服などで調節するように心がけている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカやトイレ、風呂場にはてすりが付けられており、入居者の身体能力に合わせて使いやすいようにしている。すのこを置いて便座の高さ調整をできるようにしている。夜間には必要に応じてポータブルトイレをベッド横に設置し、安全に排泄できるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には名前のプレートと共に、それぞれ違う花の絵を掲げて目印になるようにしている。トイレにもはっきり分りやすい字の大きさを表示し絵文字もつけて入居者が分かりやすいようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周辺に花のプランターを置いたり、裏に畑を作って利用者と一緒楽しんだり、草引きや収穫をすることの喜びを味わうようにしている。気候のいい時には外で机など出しお茶を飲んだりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域に開かれたホーム作りに努め、何時でも家族や地域の方々々が訪問していただけるような明るく親しみのあるホーム作りを心がけている。ホームや地域の行事などに、入居者や職員も地域の方々と一緒に参加したりして楽しんでいる。入居者の個性を尊重し、その方の時間の流れを大切にケアを実践している。